

平成 30 年度 学校評価報告書（総表）

令和元年 6 月 3 日

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属桐が丘特別支援学校	校長名	下山 直人
幼児・児童・生徒数	130	学級数	31

2 教育目標等	
① 学校教育目標	教育基本法および学校教育法、学習指導要領の示すところにより、肢体不自由及びその他の障害を併せ有する児童生徒に対して、個々の個性と障害の状態に応じた教育を行い、豊かな人間性を持ち、積極的に社会に参加し、生涯にわたって自己の生き方を探求していく人間を育成する。
② 学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> (1) 附属学校として筑波大学の教育研究と連携協働 (2) 先導的で高度な教育研究の展開と成果の発信 (3) 安心・安全な学校づくり (4) 附属学校の使命の自覚と教職員としての誇り (5) 公開性・透明性の高い学校経営 (6) 人事の流動性を高めた教職員組織の活性化 (7) 学校機能及び学校運営の効率化
③ 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業の充実 研究対象教科以外の授業力向上を図る。 ② ステークホルダーとの信頼関係の構築 学校ホームページを改善し、情報発信力を強化する。 ③ 先導的教育研究の成果発信 教科教育の研究活動を維持しながら、重複障害教育研究の強化を図る。 ④ 肢体不自由教育の専門性の維持・向上 自立活動の指導ガイドラインを作成するとともに、同僚間での指導の振り返り、相談等を充実させる。 ⑤ 入試作業の改善 入試問題作成の手続きを見直すとともに、入試業務のチェック体制を強化する。 ⑥ 教育課程及び学級編制の再編 将来構想を明確化し、同構想に沿った教育課程及び学級編制の在り方を明確にする。

<p>④ 前年度の成果と課題</p>	<p>【平成 29 年度の重点目標と成果】</p> <p>○授業の充実 L字型構造を踏まえた授業研究の実施（個別の指導計画の確認）。保護者による学習指導への評価ポイント増。</p> <p>○ステークホルダーとの信頼関係の構築 保護者向け研究概要説明会を複数回開催。保護者による学校評価のポイント増（16/18 項目）。心身障害児総合医療療育センター内における感染症対策への対応。</p> <p>○先導的教育研究の成果発信 重度・重複障害児を対象とする研究の充実。文部科学省事業として教育課程、キャリア教育、学習支援機器に関する研究に取り組み成果を発信。公立特別支援学校との連携研究の充実。全国肢体不自由教育研究協議会、日本特殊教育学会等での研究発表。肢体不自由教育実践研究協議会、自立活動実践セミナーへの参加者増。</p> <p>○肢体不自由教育の専門性の維持・向上 個別の教育支援計画に記載する合理的配慮の内容の整理。自立活動を主とした校内研修の計画的な実施。</p> <p>○校舎等の改築工事下での教育活動の維持・充実 校舎改築工事に伴う教育活動への影響なし。</p> <p>【課題】</p> <p>○心身障害児総合医療療育センターに入所する児童生徒受入に係る東京都との交渉。 ○本校校舎改築に係る対応（工事期間中の移行計画、備品整理等）。○学級編制の検討。○筑波大学人工知能研究室との連携強化。○入試作業の改善。○指導態勢（特に自立活動）の見直し。○研究活動の広報活動。○施設併設学級校舎の渡り廊下工事延期。</p>
--------------------	---

<p>3 重点目標達成についての総括的評価</p>	
<p>○授業の充実 教員の授業に対する自己評価が高まった（18 ポイント上昇）。しかしながら、研究授業の対象は依然一部の教科や学級に偏り、それ以外の教科や学級の授業を教員相互で見合う機会等を増やすことはできなかった。</p> <p>○ステークホルダーとの信頼関係の構築 学校ホームページの再構築を図るため、外部企業にリニューアルを依頼した（作業継続中）。保護者の学校評価アンケートでは、一定の評価を得たが、一部で課題も残した。</p> <p>○先導的教育研究の成果発信 重複障害児、重度・重複障害児を対象とする研究の成果をまとめ、肢体不自由教育実践研究協議会等で発表した。ロボットスーツ HAL（腰タイプ）を学校で活用するための研究にも着手した。</p> <p>○肢体不自由教育の専門性の維持・向上 「自立活動の時間における指導に当たって（対応指針）」を作成し、校内での自立活動指導について学校の方針を明示した。</p> <p>○入試作業の改善 試験問題の作成過程と確認作業を改善し、ミスなく入試を終えた。</p> <p>○教育課程及び学級編制の再編 学校教育目標、学部教育目標、目指す児童生徒像を見直し、改訂した。学級編制の検討についても校内委員会が中心になって進めることを確認した。</p>	

<p>4 来年度の学校課題</p>	
<p>○心身障害児総合医療療育センターに入園する児童生徒受入に係る東京都との交渉。 ○本校校舎改築に係る対応（行事の変更、Ⅲ期工事の計画等）。 ○定員未充足の検討。 ○施設併設学級の老朽化した渡り廊下の改修。 ○医療的ケアへの対応。</p>	

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- 我が国の肢体不自由教育及び本学における本校の役割を明確にしつつ、学級編成や教育課程の在り方を含む将来構想を検討する。
- Ⅰ期工事の完成を踏まえ、新校舎及び旧校舎の安全かつ有効な活用を進める。Ⅱ期工事の開始に伴い、校舎等改築工事期間中の安全管理を徹底するとともに、行事の調整及び物品の整理、新設備品等の確認等を徹底する。
- 心身障害児総合医療療育センター多目的棟と施設併設学級校舎を結ぶ渡り廊下の改修を働きかける。
- 心身障害児総合医療療育センターに入所する児童生徒が、公立特別支援学校にも通学できるよう、学長を通じて東京都に働きかける。

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

- 筑波大学附属桐が丘特別支援学校研究紀要第54巻 2019年3月

学 校 評 価 （ 自 己 評 価 ） 報 告 書 （ 項 目 別 表 ）

学校名	筑波大学附属桐が丘特別支援学校
-----	-----------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-8	学習指導要領等の基準にのっとり、児童生徒の発達段階に即した指導に関する状況	<p>重点を置く事項を明確にし、肢体不自由のある児童生徒の実態に応じた年間指導計画の作成と計画に基づいた授業実施、評価、修正を行い、個別の指導計画をPDCAのサイクルで実施した。保護者の学校評価アンケートでは、一定の評価を得たが、一部で課題も残した。</p> <p>PDCA サイクルに基づく個別の指導計画の運用の実現を図るため、日常的な授業を対象として、より多くの教員が研究授業に当たれるよう体制を工夫していく必要がある。</p>
1-2-1	学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	<p>各学部での検討を学校全体で共有し、さらに検討していくことで、全ての教員が関わって、学校教育目標、学部教育目標、目指す児童生徒像を見直し、改訂した。校舎改築などとも関連させつつ将来構想の明確化を行い、さらに次のステップとして、学級編成の検討について、校内委員会が中心になって進めることを確認した。</p>
7-1-99	組織運営	<p>課題となっていた試験問題の作成過程と確認作業を改善し、ミスなく入試を終えた。</p>
8-1-2	校内における研修の実施体制の整備状況	<p>「自立活動の時間における指導に当たって（対応指針）」を作成し、校内での自立活動指導について学校の方針を明示した。自立活動の授業力向上を目指した研修に継続して取り組み、本方針の実現について評価を行っていくことが必要である。</p>
10-1-6	情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	<p>学校ホームページの再構築を図るため、外部企業にリニューアルを依頼した。作業を継続しており、6月中には完成し、公開を予定している。入学希望者を増やすため、学校公開や体験授業の持ち方について、校内委員会で評価、検討を行っている。</p>
14-1-3	先導的教育研究	<p>重複障害児、重度・重複障害児を対象とする研究の成果をまとめ、肢体不自由教育実践研究協議会等で発表した。ロボットスーツ HAL（腰タイプ）を学校で活用するための研究にも着手した。</p>